

Protein Rapid™ 食物アレルギーイムノクロマトキット

キット構成

品目	数量	保管方法
テストストリップ	25個	2~8℃ (冷凍不可)
抽出緩衝液	1本 (50 mL)	2~8℃ (冷凍不可)
希釈チューブ	26本	—

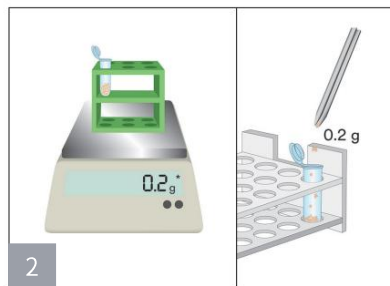
※キットの内容物はすべて使用前に室温 (20~25℃) に戻してからご使用ください

操作手順

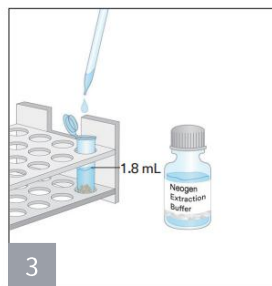
食品検体 (固体)



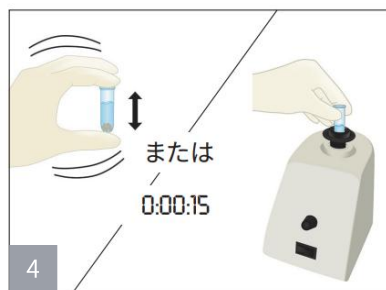
1. 検体を均一に微粉化します



2. 検体0.2 gを計量し、マイクロチューブに添加します



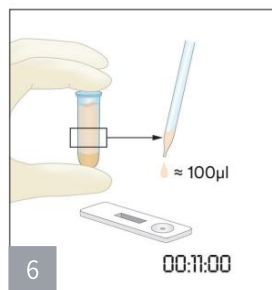
3. 付属の抽出緩衝液1.8 mLを添加します



4. 15秒間激しく振とうするか、攪拌機にかけて完全に混合します

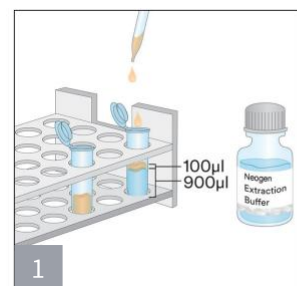


5. 5000~7000 rpm (3000 xg) で20~30秒間遠心分離します

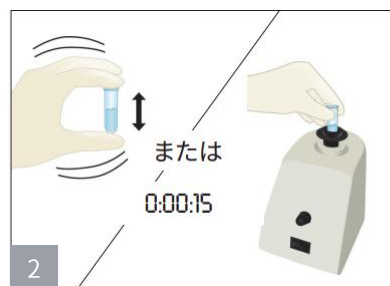


6. 中間層 (水層) から100 µLを取り、テストストリップに滴下します。11±1分間待ちます

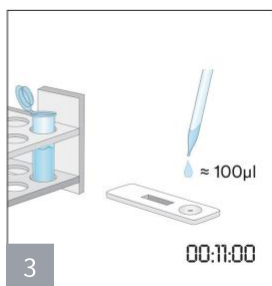
食品検体 (液体)



1. 抽出緩衝液900 µLに十分に混合した検体100 µLを添加します

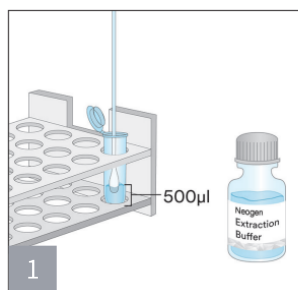


2. 15秒間激しく振とうするか、攪拌機にかけて完全に混合します

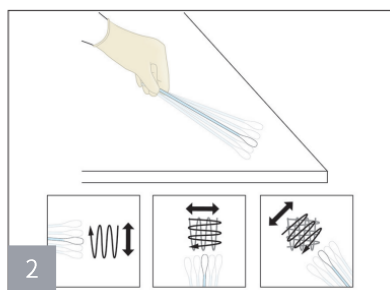


6. 中間層 (水層) から100 µLを取り、テストストリップに滴下します。11±1分間待ちます

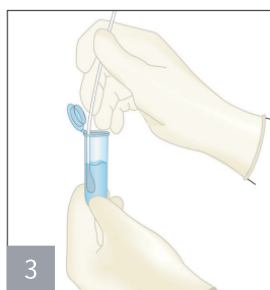
環境検体（ふき取り）



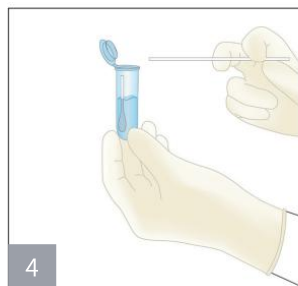
1. チューブに抽出緩衝液を500 µL採取し、清潔なスワブを浸します



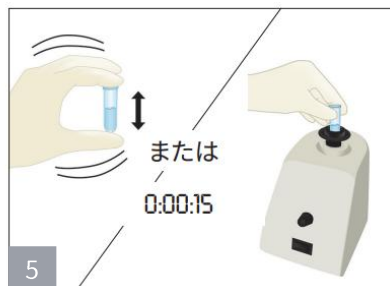
2. スワブを表面に対して30°の角度に把持しふき取ります。方向を変えながら3往復させます



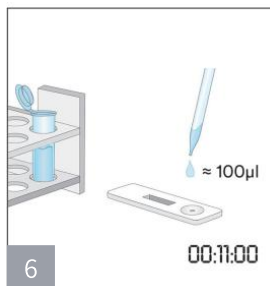
3. チューブにスワブを戻し、抽出緩衝液中で数回回します



4. スワブ先端をチューブの中で折り取り、キャップを閉じます

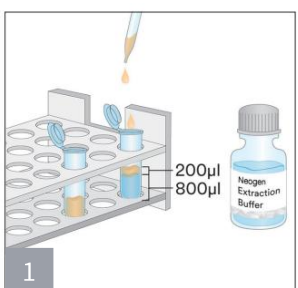


5. 15秒間激しく振とうするか、攪拌機にかけて完全に混合します

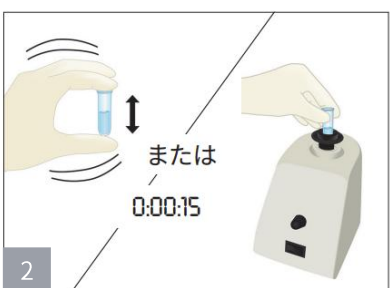


6. 抽出検体100 µLを取り、テストストリップに滴下します。11±1分間待ちます

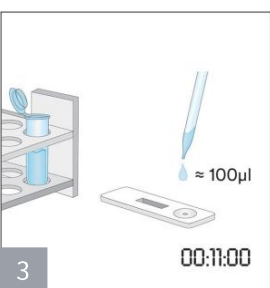
環境検体（リンス水）



1. 抽出緩衝液800 µLに十分に混合した検体200 µLを添加します

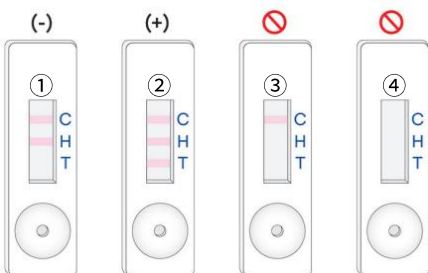


2. 15秒間激しく振とうするか、攪拌機にかけて完全に混合します



3. 抽出検体100 µLを取り、テストストリップに滴下します。11±1分間待ちます

判定方法



C=コントロールライン
H=フックライン（高濃度陽性ライン）**
T=テストライン

フックライン（高濃度陽性ライン）による高い信頼性

イムノクロマト法によるアレルゲン検査では、検体中の汚染濃度が非常に高い場合、テストストリップが過負荷となり、偽陰性が生じることがあります。本キット（小麦用を除く）ではフックラインを採用しており、高濃度による偽陰性反応を容易に識別できます。

①	C・Tにのみラインが認められる場合	(-)	陰性
②	C・H・Tすべてでラインが認められる場合	(+)	陽性
③	Cにラインがあり、H・Tにラインが認められない場合	⊘	再検査推奨*
④	C・H・Tすべてでラインが認められない場合	⊘	再検査推奨*

*左図③のようにフックラインが認められない場合や、試験結果は有効となりますが、必要に応じて試料を希釈した上で再検査を実施することが推奨されます。左図④のようにコントロールラインが認められない場合、試験結果は無効となり、再検査を実施することが推奨されます。

**小麦用にはフックラインがありません。